オーケストラの響きをひろく人々に

日本交響楽振興財団会長　原 良也（はら　よしなり）

日本交響楽振興財団は2023年春に創立50年を迎える。小澤征爾さんの昭和天皇への訴え（1972年6月）がきっかけとなって設立された団体である。これまで「音楽芸術をひろく人々に」をモットーに交響楽の魅力を広く伝えてきた。長年にわたって活動を行うことができたのも、ひとえに経団連会員企業・団体の多くから寄せられたご支援によるものであり、厚く感謝申し上げたい。

オーケストラ演奏会を各地で開催

当財団の活動は、①プロオーケストラが各地に出向いて演奏する巡回公演、②アマチュアオーケストラ演奏会、③特別支援学校オーケストラコンサートなどからなる。中心は巡回公演で年12回実施している。オーケストラ公演には多額の経費がかかるため、競輪の補助金を活用している。集客数は年間約1万人である。

巡回公演を始めたきっかけは、オーケストラによる生演奏を地元で聴きたいという要望に応えたものである。巡回公演には楽団、指揮者、独奏者、各地の行政や芸術文化団体、会館・ホール、小中高校など関係者が多岐にわたるため、当財団が全体を取りまとめている。ご承知のように、大都市圏と地方都市では芸術文化へのアクセスに大きな格差が存在する。少子高齢化や人口減少、また財政難に直面している地方都市にとって、日本を代表するオーケストラの生演奏を自分達の街で聴けることは、芸術文化ギャップを解消する機会となっている。

ソフトパワーとしてのオーケストラ

現在、新型コロナウイルスの影響で演奏会を開催しようにも制約が多く、オーケストラは危機的状況にある。当財団の演奏会も2020年度は回数を減らさざるを得なかった。また、入場時の検温や消毒など感染防止策の徹底が求められている。こうした事態が一刻も早く終息し、本来の音楽活動が戻ってくることを切に願っている。当財団が行う演奏会のアンケートには、「コロナ禍で長らくコンサートが開催されなかった。久しぶりに生の演奏を聴いて感動した」と、演奏会を楽しみにしている声が予想以上に多く聞かれた。

近年、我が国オーケストラの演奏技量は大きく向上した。オーケストラやその演奏力はその国のソフトパワーのひとつであり、海外からの支持や理解、共感を得る重要な要素となる。オーケストラ音楽の魅力は尽きない。これをひろく伝えていくことが当財団の使命である。経団連の会員企業・団体の皆様のご理解とお力添えをお願い申し上げる次第である。

日本交響楽振興財団の演奏会（長野県岡谷市カノラホール、新日本フィル、指揮 大植英次、ピアノ 上原彩子）